

●シリーズ●わが町の文化財へ 111 ｖ

世羅町重要文化財 紙本墨書大淀三千風俳諧

昭和59年5月15日指定

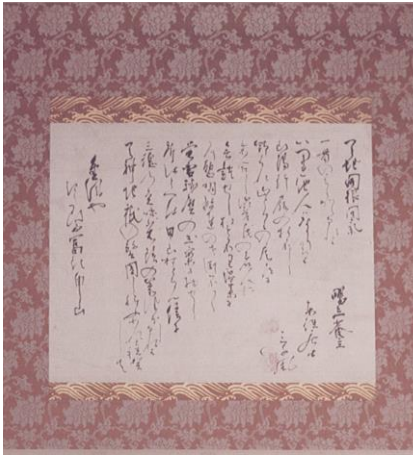
大淀三千風は、江戸時代前期の談林派の俳人で、天和3年（一六八三）から七年間全国を行脚し、「日本行脚文集」を著わしています。元禄8年（一六九五）には、相模国大磯に鳴立庵を再興したと伝えられている人物です。

この大淀三千風が、甲山城跡（今高野山城）を詠んだ句で、かつては今高野山の塔頭寺院の福智院に伝わっていたものです。

「金風や 記たいて富す甲山 鳴立庵主東往居士三千風」と書かれています。

談林派とは、俳諧の流派の一つの派で、江戸時代前期の延宝年間（一六七三〜一六八二）の頃、西山宗因が中心となって談林俳諧活動を行ったもので、全国に多くの門人をもっていました。かの松尾芭蕉も談林派の江戸宗匠として活躍しています。

この書は、世羅郡における全国的俳諧流派の談林派の影響があった証拠となる書として貴重です。



●シリーズ●わが町の文化財へ 112 ｖ

世羅町重要文化財 文裁寺古石塔群

昭和59年5月15日指定

文裁寺墓地の石塔群は、一箇所に残欠を含む宝篋印塔が六基、結晶石灰岩製のもの四基、花崗岩製の無縫塔一基、五輪塔や石仏などがあります。いずれも室町時代後期頃のもので、当時の武将一族の墓塔として造立されたものと推定され、伊尾の鳳林寺古石塔群（伝湯浅氏古石塔）とともに、当時の墓塔を研究する上で貴重な石塔群です。

花崗岩質の宝篋印塔の一基には「大成宗功」の銘のあるものがあり、寺伝では高山城主天野氏の墓と伝えられています。

古石塔群の中には、西側にある砂走城の和智氏一族の墓も含まれていると推定されています。

